

令和6年度 非核都市宣言平和事業実行委員会  
第2回議事録（要旨）

日 時：5月23日（木）午後6時15分～8時30分

会 場：かたらいの道市民スペース

出席者：委員 12 名（中里委員長、横山副委員長、内田委員、木川委員、牛田委員、木岡委員、田村委員、金子委員、菊竹委員、北山委員、高橋（智）委員、島津委員）

事務局 3名

1 開会

・今回から参加する委員の紹介

【事務局】前回委員の皆様からいただいた2点の内容について回答したい。会議のオンライン参加についての希望をいただいたが、委員のオンライン参加とオンライン傍聴の2種類があると事務局では考えている。委員のオンライン参加については、事務局で可能な限り調整したい。機器の用意の都合があるため、次回日程決定後、オンラインでの参加を希望する委員の方は、早めに事務局までご連絡・ご相談いただきたい。ただ機器の準備の都合で、日程によってはご希望に沿えない場合があることをご了承いただきたい。また、前回資料でもお配りした通り、会議における写真や動画の撮影、録音等の禁止については、オンライン参加の場合でも同様であるため、よろしく願いたい。一方でオンラインによる傍聴については、皆様に自由に議論を行っていただきたいというこの会議の性質上、委員の皆様が意見しづらくなならないように、慎重に考える必要があると思っている。事前に了承を得て、委員依頼をしていないため、少なくとも皆様にお諮りした上で、決める必要がある。次に毎年行っている研修会の内容の配信について、こちらも同様の理由により、YouTubeによる配信については、現在のところ行う予定はない。ただ、委員がおっしゃっていた情報公開、共有が必要といった趣旨についてはご指摘の通りと考えるため、今後研修の概要等を市ホームページに掲載していきたいと思う。

【委 員】オンラインでの参加となると、私たちは ZOOM 等での参加になると想定できる。基本的には録画や録音などは遠慮していただくということをルールとしてやってるが、傍聴がオンライン参加するということは、向こう側に誰がいるかわからず、ほとんど公開しているのと同じ状態になるといった懸念があるため、ここから先はモラルの問題だと思う。録画録音をしないなど、参加してる方だけのルールではなく、オンライン参加される方に対しても、何かしら協力を求めるというレベルになると思う。それが原則じゃないかと思う。ご検討いただきたい。

【副委員長】他のご意見がある方はいるか。

【事務局】前回の資料でお配りした傍聴基準のとおり、この委員会のルールとして、会議における写真動画撮影、録音等は禁止と謳っており、オンラインで参加する場合も同様と考えている。ZOOM で配信する場合、ホストの権限として録

画禁止というのは設定ができる。ただ、参加される方のパソコン自体のハードコピーは防げない。委員がおっしゃるとおり、モラルの問題かと思う。委員の皆様についても、前回お配りした資料の要綱のとおりである。事務局としてのお願いである。

【副委員長】オンラインでの会議への参加を検討することは、利便性の観点から意味がないことではないが、オンライン参加という形式を採用するにあたっては、各委員への信頼が前提であること、皆様ご同意いただきたい。

(1) 憲法月間記念行事のふり返り【資料1－1、1－2】

【委員】参加者の属性について、12日の松元さんのイベントの30歳以下の内訳はわかるか。

【事務局】10代以下が2名、20代が3名、30代が2名である。

【委員】11日の山本さんのイベントの内訳はどうなっているか。

【事務局】10代以下が1名、20代が1名、30代が1名である。

【委員】これについてどのように評価するか。前回の実行委員会でも質問したが、決算でしか謝礼の金額がわからないと困る。それぞれの先生の金額を教えてください。

【事務局】2人とも同じ金額でお願いしており、16万5000円である。

【委員】松元ヒロさんも16万5000円をお願いをしているということは、15万プラス税ということか。

【事務局】謝礼であるため、消費税ではないがそう捉えることもできる。

【委員】16万5000円という金額は、前回のご説明のとおり、双方合意の上ということか。

【事務局】そうである。

【委員】その上でオンライン配信については、必要かと思っているが、せっかく松元ヒロさんはともかくとして立派な講演をされたとのことであつたなら、講演録を作成するという発想にはならないか。講演録の作成については、これからでも交渉できると思う。講演録の形で記録すれば、どのような話であつたのか参加できなかった委員も見れるし、私も、ぜひ読ませていただきたいと思いますのでご検討いただけないか。それから、内容を知りたいというところだと、松元さんのライブに関する参加者の感想を見ると、「的確な政府批判がよかった。」等々のコメントがある。どういう内容であつたのか。特定の政党を批判する場面があつたと思うが、内容の概要を説明いただきたい。

【事務局】講演録について、今年度については両日とも録音をとっておらず、松元さんに関しては、事務局も含めて録音は一切禁止となっていた。今年度は作成が出来ないため、来年度以降、課題として検討したい。

【委員】来年度でなく、次のイベントから対応していただきたい。

【事務局】次回以降、講師の方に了承を得られたら、講演記録を作成したい。松元ヒロさんのイベントについて、全部を記憶しているわけではないが、特定の政党批判というように感じた方もいたかと思うが、今の政府への批判と捉える方もいらっしゃると思う。また、具体的な事件を元に作られた、「ヤジと民主主義」という映画の感想を再現というような形で演じられていた。その中

で、映画の内容として特定の政党に対する野次のようなものがあつたかと思う。それから、自分のパントマイムのお話や「福田村事件」という映画について再現し、皆さんと一緒に考えるといったスタンスの内容だった。最後が、今回出演依頼の際にお願いをした「憲法くん」で、コントのような内容の中で、自分が憲法に成り代わって、自分のことを古いとか懐疑的だといった人もいるが、そもそも憲法について考えるのは皆さんであり任せますよといったような言い方をされていた。どんな立場でどんな政治信条をもってお聞きになるかによって感じ方が違うので、際どいと感じる部分もあつたのかなとは思ふ。

【委 員】 際どい内容があつたという認識はあつたということか。

【事務局】 聞く方によってはそう感じられる方もいるかとは思つた。

【委 員】 その上で、こういったことを市の税金で、様々な政治信条をお持ちの方がお支払いした税金でやるということが、果たして適切であつたかどうか。今回はやってしまったが、どのように受けとめているか。

【事務局】 今回に関しては、やってしまったから良いということではなく、事務局のリサーチ不足であつた部分もあるかと思う。ただ、実行委員会では、「憲法くん」というネタを持っていることでご発案いただいたと思っており、市長にも諮ったうえで実施している。今後の講師について気をつけていきたいとは思ふ。

【委 員】 基本的には公正な情報提供を事務局の方をお願いしたい。また、同じ平和を求めるにしても求めるプロセスというのはいろいろな考えがあると思う。特定の政党政派を支持ないし不支持のスタンスを公言される方を講師として呼び出すのは望ましくないと考えている。そういった声が市民の中にある。松元ヒロさんのアンケートで皆さん良かったと言っているが、逆に言うて良くなかつたと思うような人は来ない。要するに来た人だけの意見を聞いて良かったとする、この資料の評価は妥当かどうかということである。行かないという選択をしたサイレントマジョリティに対して、これはアプローチになつてないと思うため、そういったことは、事務局だけではなくて委員の皆様全体におかれても、よくお考えいただきたい。

【副委員長】 他にご意見ご質問はあるか。

【委 員】 今まででは学者さんをお呼びすることが多かったが、芸人の方をお呼びしたことについて、ショーとしては面白かつたと思うし、また、一部誤解があり、前市長が決めたようなことが言われているが、実行委員会できちんと審議して確認し、現市長にも確認している。市からは、事前のリサーチが不足していたという認識が示されたが、私は憲法行事としては、今のところ、閉塞されたような状況の中では、良い話だつたと思うし、個人的には、非常によかつたと思う。若い人たちにも一度は聞いた方が良いという話は、職場でしている。

【副委員長】 他に感想等あるか。

【委 員】 話を聞いていて、心がグルグルしてしまつて、言葉が出にくいような状況ではあるが、当日私は参加したが、非常に驚いた。今日の話で出ているように内容が偏っている。自民党の支持者ではない私から見ても、とても政治的な

中立性に欠けた内容だと思う。話が前後するが、どういう経過でこのイベントが決まったか興味を持って、昨年度の議事録を見た。一番下にある議事録を見たが、冒頭に松元ヒロさんの話題が出ており、「様々な活動をされている方なので、例えば反対する街宣車が来るかもしれない。状況によって、武蔵野市にも動きがあるかもしれないことは承知してもらいたい。」とある委員の方がおっしゃっている。この時点ではもうすでに呼ぶことは決まっていたと思うが、一部の方はそういった認識を予め持っていた。しかし、先ほどから出ているように、具体的な内容をどういったことをやるのかは知らなかった。「憲法くん」という内容が良さそうだから呼んだ、というのはわかるが。それで、私は決して松元ヒロさんについて、どうこう言おうとは思っていない。ただ、今回あの内容について、皆さんは見られてどう思ったのか。仮に思想が逆の立場だったとしても、あれを手放しでは喜べないし笑えない。あそこにもし自民党を推す方が来ていたとしたら、どんな居たたまれない気持ちで1時間半ぐらい過ごされたのか。松元ヒロさんの言葉を借りて言わせてもらえば、電車の中で例えば足を踏まれたようなシーンで、踏んだ方は覚えてないが、踏まれた方は覚えている、という話をされたと思う。そのエピソードを思い出した。僕はまた松元ヒロさんと呼ぶとしたら「憲法くん」の部分だけは良いかと思う。また、逆の考えをお持ちの方を呼んでトークショーみたいな形だったら良いかと思うし、そういったことはあり得ると思う。ただ、今年やった内容を見て良かったからまた来年もということは全く同意できないと思っている。皆様にも、あれは成功だったのかどうだったのか聞きたい。

【副委員長】今の発言を受けて皆様何かご意見、ご感想はあるか。

副委員長の立場ではなく、個人の感想としては、松元ヒロさんの全体の芸の流れとして、確かに自民党のことを揶揄するような場面がなかったわけではない。ただ、私の感じ方としては、彼が一番伝えたかったのは、平和というものや憲法や人権というものを考えるときに、その逆側に、差別や戦争というものが存在する、そういうことのない世の中にしたい、それが彼の伝えたかった本質だと個人的には受け止めた。

(2) 夏季平和事業について【資料2-1、資料2-2、資料2-3】

・事務局より、夏季平和事業（案）について説明。

【副委員長】事務局からも説明があったとおり、まず食体験イベントの実施について固めていきたいと思う。

【委員】すでに事務局に予め意見をお伝えしているが、夏の食体験イベントについては、熱中症や食中毒の問題がある。食体験イベントには意義があるが、夏のイベントとしては不向きではないかと思う。

【副委員長】夏季平和事業のイベント案については、先週事前にお送りしており、目を通していかと思うため、決を取りたいと思う。

→食体験イベントについては、見送ることと決定した。

【副委員長】資料にあるとおり、各委員が推薦をしている講師やイベント案について、説明をいただきたいと思う。

- 【委員】夏季平和事業については、いままで大人向けと子ども向けのイベントとして、二本立てとして実施してきた。一緒くたにしてイベント案を検討するのは難しいと思う。構造として、大人向けのイベントとか子ども向けのイベントみたいな形で考えていくのかを決めたい。
- 【副委員長】では、2日間の企画の立て方から話したいと思う。委員がおっしゃったように、一昨年までは、子ども向けと一般向けの日に分けて、実施していたが、昨年に関しては、子ども向けと一般向けというようなくくり方ではなく、音楽イベントの日と映画上映会というような立て付けとした。結果的に、例年より来場者数が多かったと実感として思っている。その辺りについて、各自意見を述べてもらいたいと思う。
- 【事務局】市としては、大人向けと子ども向けもイベントとして分けていただく必要はないが、できるだけ子どもも参加できるものを確保していきたい。特に夏休みの時期でもあるため、意識してご検討いただきたい。
- 【副委員長】事務局からのご意見も含めて、ご意見等あるか。
- 【委員】例えば講演者の中には、大人向けの講演ができる方や子ども向けの講演ができる方がいると思うが、子ども向けの講演であっても大人も対象になると思う。そのため、どちらかという、子ども向けにお話をしていただきたいということを講師に伝えることで、戦争や平和に関する子ども向けの話から大人が得られる内容もあると思う。あそこは子ども向けと大人向けと分けなくてもいいという考え方も成り立つと思う。
- 【事務局】子ども向けイベントをやると、必然的に大人もついてくると思う。幼児を対象にするとイベントの組み立て方が違うかと思うが、そうでなければ、できるだけ広い層に参加いただきたいと思う。
- 【委員】講演であっても、子どもでもわかるようにお話してくださいとした方が良いか。
- 【事務局】皆様で話し合って決めていただければと思う。
- 【副委員長】委員がおっしゃったように、子ども向けと一般向けといった案内を付ける必要はないかと思う。昨年度のイベントで、音楽イベントとしては、ウクライナ出身のバンドゥーラ奏者のカテリーナさんとジュニア合唱団「風」をお呼びしたが、親御さんや兄弟、友達も来場したため、集客の平均年齢が下がったという印象があった。また、映画上映会も「この世界の片隅に」を選び、大人にも子どもにも訴求力を持っている作品であるため、お客さんも幅広く参加いただいたと感じている。そのためコンテンツの選び方やテーマづけの仕方などにより、大人も子どもも一緒くたに集客力を持ったイベントができると思う。
- 【委員】子ども向けと大人向けを分けなくてもいいのではないかと、というご提案か。
- 【副委員長】個人的には、そのように考えている。皆様のご意見を聞いてみたいと思う。
- 【委員】必ず2日に分けて行う必要があるか。
- 【事務局】同じ日の午前と午後にイベントを開催するということか。
- 【委員】そういうことではなく、イベントを1つだけにするとか。
- 【事務局】その部分についても、皆様で決めていただきたいが、1つということは可能だがそれぞれやりたい案がある中で、できる機会として、2回とっているため、協議される中で決めていただきたい。

- 【委員】去年は、映画上映会では小さい子と親御さん、ご年配の方が参加していたと思うが、音楽イベントは中高生の参加が多かったのか。
- 【副委員長】中高生がたくさんいた。
- 【委員】このイベントについて、どこで広報してるのかが気になった。市のホームページ等については存じ上げているが、中高生はどうやって呼んでいるんでののか。広報チャンネルを通じているのか。
- 【事務局】昨年度の音楽コンサートは、出演者の友人などが多かったと感じているが、中学生に関しては、学校のタブレットへの配信や SNS への投稿をしている。また、市の長期計画策定の際、中高校生が、動画チャンネルを自分たちで作るなどの試みもしており、そういった形での発信は、時間的に夏は難しいが、今後そういうことは相談していきたいと思う。
- 【委員】なかなか市報などに目を通している中高生は少ないが、きてくれるのであれば、中高生向けというやり方もあるかなと思った。
- 【副委員長】夏季平和事業に関しては紙媒体でプリントアウトしたものを、公立の小中学校に配布させてもらっていると思う。夏休み前に配ってもらうように要請はしている。
- 【事務局】だんだん学校もペーパーレスになっていて、前は各自 1 枚ずつ配っていたが、今はタブレットに送る形になっている。市民へちらしを全戸配布するのは、かなり膨大な作業であるため、業務委託が必要かと思う。
- 【副委員長】今の話は、どういう企画、どういうコンテンツにしていっていかってという、広報戦略の話だと思うので、内容の話と分けて検討していきたいと思う。では、各委員からのご提案について、提案者からご説明していただきたい。それでは、最初は私からご紹介する。秋葉忠利さんをお呼びして講演会をするというのが 1 つ。もう 1 つが、数年おきに実施している、武蔵野市の中高生を長崎に派遣して、現地の人たちと交流しているイベントがあるが、現在、大学生や大人になったりしてる体験者を長崎からお呼びするかオンライン参加という形で、今どう感じているかをパネルディスカッションするような形で意見交換する会を実施する、というのが 2 つ目である。1 つ目の秋葉忠利さんは、ご存じかもしれないが、1999 年から 2011 年まで広島市の市長を務めて、積極的に平和資料館の見直しを行い、戦争に依存しない社会のあり方を憲法 9 条の存在を通じて世界に発信していきたい、といった目線で活動されている方である。ロシアによるウクライナ侵攻が始まった際、いち早く署名活動を集めて、核の不使用について、何万筆もの署名を集め、プーチン大統領宛に送ったというような、経歴をお持ちの方である。次の委員、お願いしたい。
- 【委員】資料に推薦理由も含めて書いているが、1 つ目が裏千家の前の家元さんの千玄室大宗匠である。この千玄室さんは戦争中、特攻隊を志願して、生き残ってお帰りになった方であり、ちょうど今年が特攻作戦開始から 80 年であることもあり、その上で、戦後、茶道を通じて、平和活動を積極的に国際的に展開されている。地元京都に住まれているが、京都近辺では小中学生向けの話もしておられる。私どもは武蔵野市に住んでおり、空襲の被害のことを強調するところあるが、戦争に行った方々の思いを考えた上で平和というのを考えた方が良いのではないか。また、ワールドワイドに活躍されていて党派

を超えた方でもあるため、そういった意味でも今回少し疑念を持った党派性みたいなものを超えるかと思う。もう1人は、藤原正彦先生は、吉祥寺の北町にお住まいで、お母様は藤原ていさん、お父様は新田次郎さんであり、藤原ていさんは本市の教育委員も歴任された方である。本市に非常にゆかりの深い方であって、ご本人は満州から引き上げをされてきた方なので、日本が経験した地上戦、ウクライナやガザで起こっていることと重ね合わせて、思いをはせてみてはいかがだろうと思う。大学の先生でもおられるが、非常にお話も上手である。こういった観点から、お二方を推薦した。

【副委員長】 次の委員お願いしたい。

【委員】 憲法月間記念行事の際にも推薦したが、藤田のぼるさんは「麦畑になれなかった屋根たち」のこの辺の地域の子どもたちが、中島飛行機のことを知るには、ポピュラーな作品であり、その作者である。現在、日本児童文学者協会の理事長であり、子ども向けにも大人にも話ができ、朗読とあわせて実施できればと思う。藤田さんに個人的にお伺いしたことがあるが、武蔵野市の最初の空襲でご自身の出身が秋田であるが、8月15日に空襲を受けたとのこと。その話も聞けるかと思う。あともう1つは資料に誤りがあるが、正しくは沖縄の子どもが6月23日の慰霊の日に朗読した自作の詩「へいわってすてきだね」という作品が絵本になっている。あとは、サーロー節子さんの「ヒロシマへの誓い」は過去にも上映しているが、実行委員会としても核と戦争を無くすということがテーマとなっているためこの作品は良いかと思う。

【副委員長】 委員からご推薦いただいた以外に、昨年度までに出ていた意見として、「ペーパーシティ」「ザ・デイ・アフター」「ラーグリより愛をこめて」といった映画作品が記載されている。ここに記載がないもので、個別に提案をしたいと思っている内容があれば、発表をお願いしたい。

→意見無し

そうしたら、ここから多数決で決めてしまうのは少し乱暴だと思うため、コンテンツの組み方や対象者を想定した上でのテーマ設定であったり、あとは総合的な戦略であったり、皆さんご意見いただきたい。

【委員】 講師の方について、ご推薦があった広島元市長の秋葉忠利さんについて、こちらの方は社会民主党の国会議員をやられていた。

【副委員長】 現在は違うがそうである。

【委員】 要するに国会議員をされており、特定の政党政派に関与されていたという事実である。その辺について情報提供する。共有した上で、ご判断をお願いしたいと思う。

【副委員長】 他にご意見やご質問はあるか。

【事務局】 先ほど、「へいわってすてきだね」が案としてあがっていたが、こちらについては、一昨年あたりでも候補で上がっていたが、「へいわってすてきだね」を朗読した場合、10分もかからず終わってしまうと思う。絵本の朗読は良いと思うが、組み立て方を考える必要があるかと思う。

【副委員長】 では、論点を絞って話したいと思うが、2日間企画ができる日にちを用意いただいている状況である中で、1日に集約するというご意見も出たが、せっかくなら2回チャンスがあるなら、趣向の違ったことを取り組めるというこ

とは、意欲的に考えれば良いと思うので、その2日間をどうすれば効果的な枠組みができるか。その1つの案として子ども向けと一般向けという分け方であっても良いとは思いますが、それ以外の何か組み立て方でも良いかと思う。この点について、議論したい。

【委員】先ほど事務局からあったように、子ども向けということではなく子どもも参加できるということを念頭にということもあったので、まずはその2日か1日か後ほど考えるとして、子どもも参加できるイベントについて、先にイメージを固めて、その上で大人向けなど違う切り口を、後から考えるというのはどうか。

【副委員長】今の意見に対する意見等はあるか。私としては子どもも参加しやすい、参加意欲がわきやすいイベントを、この夏休みの期間に組み込みたいと思う。その点については、ご同意いただけるということによろしいか。

→賛同

子どもも参加できる、参加意欲がわきやすそうなものについて、テーマ設定や講師の選定を考えたいと思う。また、現在意見が出ている方の中で、イベントとしてふさわしいかご意見があれば、お願いしたい。

【委員】過去の事例についてお伺いたい。令和4年に平和に関する絵本紙芝居の読み聞かせと記載があるが、それぞれ10分ぐらいの作品だと思うが、いくつかやったということか。

【事務局】3つぐらいかと思う。

【委員】3つで何分ぐらい使ったのか。

【事務局】それと中島飛行機の体験のお話と組み合わせて実施したが、絵本だけだと全部で20分弱ぐらい、トータルで1時間ぐらいかと思う。また、小さい子が多いので、集中がもって1時間弱程度かと思う。

【委員】絵本というと、対象層どれくらいを想定しているか。

【委員】低学年から下かと思う。

【委員】単独では難しいかもしれない。またそれぐらい年齢層の子どもだとやっぱり1時間が限度かもしれない。

【委員】子ども自身の持続力の問題として、1時間で組むのが目いっぱいかと思う。

【事務局】事業をやるときは45分が目安。小さい子が多いイベントはそれぐらいかと思う。中高生が一番来て欲しい層ではあるが、自発的に来てもらいにくさはあるので、その層を狙うのであれば、相当広報をがんばる必要がある。

【委員】例えば、先ほどからおっしゃっている小さい子というのは、小さい子どもっていうイメージなのか中高生世代を対象というイメージか。

【副委員長】私が提案してるトークセッションというのは、どちらかというと中高生世代やそれ以上をイメージしている。出演者自身も紐付きで参加してくれそうな世代もその辺かと考えている。確かに今までの子ども向けとしてやってきた読み聞かせなどは、未就学児や小学校低学年が多かった。自発的に子ども本人が行きたいって言い始めたというよりは、お父さんやお母さんが夏休みだし連れていってみようかなといった雰囲気のものもあった。それが果たしてアプローチとして良かったのかっていうのも考えようではあるが。

【委員】中高生をターゲットにするものの検討と親がイベントを選んで連れていくっ

ていうような小さい年代をターゲットとするものでは、また違う意味合いがあるのかなと思っている。むしろ乳幼児向けに見えるものも、実は別の意味で若い 20 代くらいの保護者を間接的なターゲットにしうるのかなと思っている。親に何か持って帰ってもらえればいいかなと思うので、そのようなイベントの作り方ができればと思う。

【委員】乳幼児向けのイベントと中高生向けのものと大人向けのものと、3つ作らないといけないのではないかと感じているが、そうだとしたら、例えば大人向けのものと中高生向けのものを一緒にするのかとか、ただ、中高生向けのものと乳幼児向けのものは一緒にならないと思う。また難しいのが、中高生は講演を聞きたがらないと思う。中高生からすると学校の授業の延長線上のようなもので、結構しんどいのかと思う部分もある。ターゲット層については、話聞いていると3つに分かれる可能性もあるとは思う。どうしたらよいか。3日取れないか。スタッフの方が厳しいかもしれないが。

【委員】中高生も大人も興味を引くものに絞っていけるのが良いと思うが、講演は敬遠されがちではある。

【委員】私も講演を頼まれる側だが、だいぶお年を召され最後に聞けるか聞けないか、といった方の話を聞いてもらいたいという思いがある。提案した方は、戦争に行かれた人である。戦争を体験された人、戦争の被害を受けた人の話を聞くことは少なくないが実際に戦われた方々の思いも聞くべきだ。戦争について、いろんな評価が皆さんあり、当事者としてはこういう思いを持っており、今どうなってるかというところを聞いて欲しいというところもあると思う。ただ、講演を聞いて欲しいと思う世代は聞いてくれないというのが事実で、私は大学で105分の講義をやるが、105分はもたない。これが現実問題として、企画としては難しいと思う。そのため、どうしたものか、考えあぐねている。本当は、講演が1つ、講演じゃないものを1つと分けてもいいんじゃないかなと思ったが、そうするとターゲット層とうまく合わないと思って、どういうふうに考えをまとめたらいいか悩んでいる。

【委員】新たな選択肢ではあるが、藤田さん1995年に出された「麦畑になれなかった屋根たち」という作品は、普遍性を持った素晴らしい作品であり、認知度もある。朗読とそこに込めた思いを話していただくのは、大人も子どもも聞けるようなやり方かと思う。また、ここにおられる委員の戦時中のお話も聞きたいと思う。「麦畑になれなかった屋根たち」の朗読のイベントと合わせて、委員の皆様の話をきくというのも、なかなか機会がないため、良いのではないかと思う。新しい企画ではあるが、子どもから大人までご参加いただけるのではないかと考えている。

【副委員長】今のご提案は、全く新たなご提案というよりは、ここに記載されてる藤田のぼるさんのイベントにプラスするようなイメージだということだと思う。私のご提案したトークセッションについて、かつて青少年平和交流派遣事業に参加された中学生が、現在、高校生や大学生ぐらいなっていると思うが、パネルディスカッションに出席していただくための交渉や、長崎で交流した同年代の子たちを招待して開催するイベントの予算と時間的な現実性はどうか。

【事務局】市としてはそういったイベントをやりたいと思っているが、現状は非常に難し

い。市の平和事業の課題として、長崎への派遣事業の実施年が定期的ではないところがある。初めに実施したのが平成24年で、その後平成27年、令和3年、4年に行っているが（令和3年は新型コロナウイルス感染症の影響で派遣は中止）、継続的に長崎と交流ができていれば、こういう事業もできるかと思うが、現状はつながりがなく、何名来てくれるかもわからない。

【副委員長】 こちらのイベントの開催は、事前の仕込みが必要だったということか。夏季平和事業については、今日決めないといけない。対象者をどうするか、どういうテーマ設定にするかについて、考えるときりがないため、ここからは決を採りたいと思うがどうか。あとは、例えばとある講師の方が選ばれた場合、その方にどういうテーマで依頼することでより幅広い年齢層に参加いただけるか、考えていくといった方向性でよいか。

【委員】 もし、2日とも講演になってしまうと、バリエーションが乏しいように感じる。

【副委員長】 一度、決を採ってから、票の重なり具合を見て考えるのはどうか。

【委員】 昨年度は、合唱など様々な意見が出た中で、可能だったらカテリーナさんと合唱団のセッションを検討してみてもどうかといった調整をしたと思う。少なくとも実施の可能性のないものを落としてから、もう1回お話しいただくのはどうか。

【委員】 例えばこの用紙を縦にもう1回線引いて、講演の順位とその他の順位をつけるような方法は、混乱するか。

【副委員長】 では、用紙の欄を縦に割り、講演の場合の1、2、3位で、右側に講演以外の1、2、3位を各自記入いただき、集計したいと思う。

【委員】 もし藤田のぼるさんが選ばれた場合、先ほど委員がおっしゃった委員からの戦争体験のお話もイベントに組み込むか。

【副委員長】 その方がイベントの時間的にも、良いかと思う。藤田のぼるさんの講演と絵本の朗読にプラスして戦争体験のお話を入れればと思う。

【事務局】 投票の結果（優先順位）

講演会

- 1 千 玄室さん
- 2 藤原 正彦さん
- 3 秋葉 忠利さん

講演会以外

- 1 藤田 のぼるさん（および委員による戦争体験の講演）
- 2 「へいわってすてきだね」の朗読
- 3 映画「ラーゲリより愛を込めて」上映会

【副委員長】 第1優先第2優先で選ばれた講師について、偏りが出るような表現があってはいけないし、子どもも大人も幅広く参加できるテーマ設定がしたいと考えている。本日の話し合いはここまでとして、テーマ設定については次回以降で良いか。

【事務局】 優先順位で交渉に入りたいと思う。テーマ設定は次回の実行委員会で良いかと思う。

【副委員長】 本日、夏季平和事業については、お声掛けする講師の方の順位が決まった。

テーマ設定や対象者の設定、広報戦略については、次回の会議に回したいと思う。

【委員】ここで問題になるのが、謝礼の払い方である。絵本の読み聞かせについては、お話いただく方の謝礼をどうするか。

【事務局】今回、事前に千玄室さんの名前が挙がったため、どこかで参考となる金額がないか探したが、見つからなかった。また、他市で実施していても教えていただけないことが多い。まずは、日程的に依頼を受けていただけるか確認をした上で、金額がわかった時点でお示ししたいと思う。先に金額を決めて依頼をするのはやりにくいと思う。

【委員】これまでつながりがあれば、わかると思うが。

【事務局】それぞれ交渉の仕方は変わってくると思う。

【委員】適宜、情報提供をいただければ判断ができるかと思う。ガイドラインを決めてほしいとは思いますがなかなか難しい部分もあることはわかるため、情報提供を随時お願いしたい。また、集まらないのであれば、メールで情報提供いただければ、あまりにもおかしい金額だったら申し上げるし、適切な金額ならお任せすることになると思う。

【事務局】先に上限を決めて、それを超える場合は、依頼しないというやり方もできるが、何とも言えないところであり、呼び出す方にこの金額出してよいのか、や旅費の部分などもある。そこは、依頼をして手応えをみて、皆様にお伝えできればと思う。

【副委員長】例えば、千玄室さんと2番手の藤原正彦さんに、日付の確認とともに値段を確認したところ、金額が倍ぐらい違うといったようなことがあれば、考える必要があるし、メールでの情報発信および意見として求めるというような方法でも構わないか。

【事務局】数字をどのぐらいの段階で教えていただけるのか、どのぐらい出演について確実にならないと教えられないということもあるかもしれない。どういうルートで依頼ができるかということも確認した上で、何か情報がわかったときお伝えしたいと思う。

【委員】千玄室さんの年齢が101歳となっているが、現実性があるのか。この段階ではあるが、来ていただくのに状況の確認をしないで推薦をするのはどうかと思った。

【事務局】お元気かと思う。講演もされている。8月の時点でご出演ができるかわからないが、現時点で年齢を理由にお断りすることはないかと思う。

【委員】今年だけで4回ほど講演をされているようだ。

【副委員長】夏季平和事業についての話し合いは以上としてよい。次の議題に移りたいと思う。

### (3) 平和の日イベント実施案について【資料3-1、資料3-2】

・事務局より、平和の日イベント（案）について説明。

【副委員長】平和の日イベントに関しては、本日の確定事項ではないため、何か現時点で、質問やご意見などあったら挙手いただきたい。また、次回以降議題としての重要性が上がると思うため、各種提案があれば、事務局に連絡をするという

方向で良いか。

【事務局】次回日程が決まった後、提案意見の提出期限を定めるため、それまでに送っていただきたいと思います。

(4) 研修会について【資料4】

・事務局より、平和の日イベント（案）について説明。

【副委員長】行先より先に実施する時期について、皆様からご意見ご質問などいただきたい。前回、委員から6月下旬から7月上旬は、仕事の関係上忙しいという意見があったと思うが、私も多分6月下旬から7月上旬は忙しいと思われるため、個人的には賛成である。

【委員】行事があるが、その日程と重ならないような設定をしたら、どれぐらいの時期が考えられるか。

【事務局】8月中旬や下旬は夏季平和事業があるため厳しいと思う。また、7月下旬から8月上旬ぐらいが良いかと思う。

【委員】いっそ9月10月にするのも良いか。

【事務局】9月は議会があるため、日程は確認したい。

【副委員長】研修会の趣旨とか目的について考えると、視察や講演を通じて、各自が何かに触れて感じたものを、今年度の活動に生かしていく、また、委員になった者同士がコミュニケーションとれるような場面もあった方が今後にも活かせるということがあげられる。こういった研修会を、今まで2月3月にやっていたが早めに実施した方が良いというのが、この提案の始まりである。ということも考えると、9月10月では果たしてどうかということと、7月や8月上旬ぐらいまでがいいのかということもあると思うが、時期の問題に関して、ご意見ある方はいるか。また、この時期だと仕事の都合から厳しいなど、個人的な意見はあるか。

【委員】私は6月下旬から7月上旬は、都合が悪い。

【委員】私は7月の中旬までは難しい。

【委員】ただ、全員が多分合致するところっていうのは厳しいと思う。そこも考えた上で設定ができればと思う。

【副委員長】すると、6月下旬から7月上旬という時期を、当初は想定してたが、3割程度の委員が現時点で都合が良くないということなので、ここの時期に関してはもう、候補としては落としてよいのか。では、7月下旬から8月上旬というのが1つの候補で、8月中旬は夏季平和事業があるため、各委員がおっしゃったように、9月から10月ぐらいの時期、この2つに絞ったらどうかと思う。

【委員】事務局に聞きたいが、9月議会は何日から何日か。

【事務局】9月は決算特別委員会もあり、一般質問が3日から5日、その後、総務委員会が9日にある。その後、18日から25日までが決算特別委員会で、30日が本会議がある。そのため、候補日としては限られてくるかと思う。

【委員】次に決めなきゃいけない大きな行事というのは、11月の平和の日か。

【事務局】そうである。

【委員】この間なら良いか。

【副委員長】今の議会の予定聞いてると、9月中は厳しいというように感じた。第1候補の時期が7月下旬から8月頭まで、第2候補の時期が10月の前半かと思う。では、どちらが良いか、手上げで決めたいと思う。

→賛同

結果…ほぼ同数

【事務局】日程が1か月以上後ろ倒しになったため、来週の実行委員会で決める方向でも良いかと思う。

【副委員長】今回の会議では、最低でも日程を1か月後ろ倒しにすることを確定した。最終的な日時の設定と実施内容は来週の議題に回したいと思う。また、夏季平和事業の話に戻るが、2日間の開催だが、日程の候補が4日ある。どの日程で開催するか決めなくて良いか。

【事務局】講師との兼ね合いもある。会議より早く決める場合はご連絡したいと思う。

【副委員長】当たり前ではあるが、土日の方が人は集まりやすいため、どちらかというとなりの方が優先度は高いかと思う。

#### (4) その他

- ・委員からの配付資料の説明および近隣施設にて実施される事業の紹介
- ・次回の委員会は、6月24日(月)午後6時15分～ かたらいの道市民スペースで開催する。
- ・委員からの平和の日イベントおよび研修会の案については、6月14日(金)を提出期限とする。

### 3 閉会